第 5 回 浅川流域連絡会

議 事 録

平成 21 年 8 月 24 日

東京都 南多摩西部建設事務所

【第5回 浅川流域連絡会】議事録

開催日時：平成21年 8月24日(月) 18時30分～20時30分

会 場：東京都 南多摩西部建設事務所 4階会議室

1 開 会

2 議 事

(1)河川整備計画の概要について

座 長

それでは『(1)河川整備計画の概要について』という事で、まずは東京都よりお願いいたします。

臨時委員

- 配付資料：『浅川圏域河川整備計画の概要』『浅川圏域河川整備計画(東京都管理区間)』
の内容説明 -

座 長

では、続きまして京浜河川事務所より『多摩川水系河川整備計画』について説明して頂きます。

委員の方々の質問等につきましては、その後に纏めてという事でお願い致します。

行政委員

- 配付資料：『21世紀の多摩川 多摩川水系河川整備計画のポイント』の内容説明 -

座 長

東京都と京浜河川事務所より『河川整備計画』について説明して頂きましたが、これについて何かご意見やご質問はありますでしょうか。

団体委員

東京都の『浅川圏域河川整備計画』の12頁の『河川整備の現状』という箇所に、圏域河川の“都市計画決定”が主に昭和の年代にされている事が記載されています。この“都市計画決定”というものが、どういうものなのか、現在実施されている工事にどの様に影響してくるのかという事をお聞きしたいのですが。

行政委員

東京都河川部の舛原と申します。

東京の河川の場合は、『河川法』に則って、先ず“都市計画決定”を取得して、次に“事業認可”を取得した上で整備を入れていくという事を基本としています。“都市計画決定”を取得する事によって道路、公園等の面的な区画整理の調整が可能になります。“都市計画決定”を取得する際には、河川整備の内容等について住民の方々への説明を行っています。“都市計画決定”では道路と同様に建築等の制限を設ける事もあります。例えばマンションといった堅牢な建物を建てられないであるとか、皆様方にとっては「ちょっとどうなのかな」という所もあろうかと思いますが、基本的には線の中で河川を整備していくこととなります。しかし、浅川圏域では曲がった川に直線的に線が入れている箇所が多い事も事実です。曲がっている箇所は将来的には旧川として、計画流量を持たない川になる訳ですが、これについても緩傾斜護岸の整備等による利用が可能であるといったメリットも考えています。地元の方々の意見等を聞きながら、整備の方法を工夫していきたいと思っています。

団体委員

今までであれば“都市計画決定”されて川が直線化されてしまえば、旧川部分は売却する方向だったと思うので、それを残す様になったのは素晴らしいと思います。しかし、所々で旧川と新しい河川との間に2, 3軒の家が残ってしまっているといった箇所があり、「大雨の時等には取り残されてしまうのではないか」といった不安を憶えるのですが、それは将来的に改善されるのでしょうか。

行政委員

“囲繞地”と言いますが川に囲まれた形で土地が残って、そこに住まわれている方もいます。これはケースバイケースですが、面積的に大きくなければ買収する事もあり得ますし、最低限生活が出来るように機能を回復しなければなりませんので、そういった事は整備の中で対応して、余り不便をきたさない様な形で整備を行っていきます。水害の恐れという点につきましては、東京都では50mm/hに対応した整備という事ですので、昨今の100mm/hを超える様な雨が降った場合には、溢れる可能性は出てきます。ただ、これは“囲繞地”だから溢れるという事ではなく、どの様な箇所でも整備の限界はあるという事で認

識して頂ければと思います。

団体委員

それは、残された“ 囲繞地 ”を将来的には何とかするという事ではなく、危なくない様にはしてあるが、何とも言えないという事でしょうか。

行政委員

そうですね。ただ、従前の機能は当然確保するという事は前提となっています。

座 長

では、次の団体委員。

団体民委員

先程、京浜河川事務所から浅川についての話がありましたが、中心市街地の浅川が全然進歩していないのです。私は、以前リバーシビックマネージャーをやっていたのですが、京浜河川事務所に呼び付けられてもやる場所は多摩川だけでした。「我々は浅川の事を問題にしているのだから、浅川に来て現場を見ながら一緒にやろうではないか」と言ったのですが中々実行されなかったのです。だから私はリバーシビックマネージャーを辞めました。多摩川のクリーンアップ作戦には今でも参加していますが。その辺をどの様に見られているのでしょうか。河川の中に雑草や雑木はあるし、もう少しせせらぎを楽しめる様な風流のある浅川にしていかないと、とにかく荒れっ放しです。市長にも「八王子市は浅川を良くしていかなければ駄目ですよ」と言っているのですが、この間、京浜河川事務所の管理課長が替わられたので一緒に浅川を見て頂きました。毎年やっているのですが9月の初めに雑草を抜いた時も雑草だらけで中の方には入れませんでした。今日は調査課長も来られているので、今度一緒に現地を見て頂ければと思います。

都民委員

浅川の関連なのですが、配布されました『21世紀の多摩川』の30頁に『これからの多摩川づくり』という事で共同でやっているという事が記載されていますが、その中にこの『河川整備計画』が作成された当初にはなかった事が記載されています。そのなかったものというのが“ 防護ライン ”です。我々が理解している範囲では、作成された当初は“ 防護ライン ”という概念がなく、その後の平成13年以降に出て来た概念です。浅川で言えば“ 特殊防護区間 ”という事で低水護岸がずっと整備されている事になっているのですが、これに関しては何度も言っているのですが「低水護岸を造るな」という事ではないのです。護るべき所は守ってほしいと思います。ただ、今の浅川の構造は河川の自然環境の回復については何も考えられていないと思うのです。例えば水際であればヨリスが着いたり、木が

生えたりして、ヤゴが這い上がってきてトンボになる様な環境があります。そういった配慮が全くないまま、ツルツルした低水護岸が次々に造られてしまう。これは榎本委員が言われたのとは別の意味で河川を荒れさせているのだと感じています。私は水際をツルツルにしておく必要はないと思います。しっかりした構想に基づいて堤防を造るという事に関しては誰も反対していないと思います。ただ水際の構造等は「よくぞあれだけ無神経に造れますね」と思えるものしか出来ていない。

更に言ってしまうえば低水護岸の背後にフトンカゴを設置してしまうと、それが魚を濾し採る網になってしまう。フトンカゴが設置してある辺りは、丁度流れが遅くなりますので、洪水の後には小魚が寄る所になります。それで水が引くと、そのまま小魚が干乾しになってしまう。そういった構造を理解されているのか判りませんが、そういった問題が放置されたまま次々に同じ様な護岸が造られている所を見ると、「もしかしたら、あれが良いと思ってやっているのではないだろうか?」という気がして非常に疑問があります。

もう一つは東京都の『浅川圏域河川整備計画』ですが、整備区間は示されているのですが、そのタイムスケジュールが示されていない為、いつ頃に何処を工事するのかが判らないのです。やはりそういった事は提示し難いものなののでしょうか。

行政委員

先程も説明しました様に、20～30年のスパンで整備を考えています。その中で予算であるとか、他部所との調整等もありますので、例えば「5年位の間をここに整備しますよ」といった事は中々明示し難いという事があります。ただ、昨今は洪水等で洗堀が進んでしまっている箇所もありますので、そういった箇所では「環境に配慮しながら」と言いつつ、川が溢れてしまいますと生命や財産に関わってきますので、やはり優先的に治水の整備を行っていく事もあるかと思えます。そういった事で詳細な計画を立てても、計画通りにいかないものも多いと考えられますので、タイムスケジュールの明示は難しいと考えています。

座長

都民委員からの前半の質問について、京浜河川事務所からご回答願えますでしょうか。

行政委員

「“河岸維持管理法線”が『河川整備計画』を策定した時点では入っていなかった」というご指摘ですが、『河川整備計画』策定の議論の最初の段階から入れてあります。浅川についても法線を設定した上で計画を皆さんにご提示させて頂いております。

都民委員

その段階では法線は示されていましたが、何をやるのかについては提示されていなかっ

たと思います。「これ以上は河川の浸食を防ぎます」というお話はありましたが、ずっと低水護岸を造っていくという話ではなかったと記憶しています。

行政委員

『河川整備計画』では構造図までは示していなくて、水衝部対策を実施する法線が示されているという事です。

都民委員

平面図が示されたという事ですよ。

行政委員

ですから、「構造については将来決めていきます」という事です。構造については『河川整備計画』策定時点では決めていませんでしたが、「今後こういった箇所で対策を実施していきます」という事を提示させて頂いたつもりです。

低水護岸についてのご指摘を毎回頂いているのですが、何回も同じ事を言って申し訳ないのですが、我々としましては、浅川は危ない川ですので安全・安心を優先して整備をさせて頂いているという事です。少しずつ工夫をしながらやっていきたいと考えています。例えばフトンカゴについても少しずつ覆土を厚くしていく等の工夫をさせて頂いているのですが、今日頂いたご指摘も踏まえて、より工夫していきたいと考えています。

都民委員

是非、「水辺に土が溜まって、そこに草が生える事が原則なのだ」という事を認識して頂きたいと思います。これは後の議題である『多自然川づくり』での議論の中にも出てくる事だとは思いますが、現在浅川で行われている整備が今後も行われるのであれば、そういった発想は出てこないと思います。

行政委員

私は工事を担当しています四十物と申します。

カゴマットにつきましては、正直に申しますと苦肉の策なのです。どういう事かと申しますと、川が増水した際には洪水流が護岸の上を流れていきます。その際に護岸の堤防際がドンドン削られていってしまいます。浅川ですと平成16年の台風の際に、そんなに大きな洪水ではありませんでしたが、それでも削られてしまったので構造の見直しをしました。ご指摘の通りに小魚が死んでいるという事があるかもしれませんが、その時は低水護岸の崩壊を防ぐという事を優先してやらせて頂きました。

都民委員

かなり古い段階から市民として関わっていた人間からすると、「自然を大事にしますよ、多自然で整備しますよ」と“防護ライン”がありますよ」という2つを示された中で、“防護ライン”の一部の構造については自然を大切にするという姿勢が見えない。浅川の場合はある時期からそれが連続して見られる様になったという事で、頑張っているという事は評価しながらも、もう少し配慮が必要なのではないかという思いが抜けない状況です。我々はかつて市民団体として『河川整備計画』に賛同した者ですから、その責任は取らなければいけないとは思っています。だからと言って川がツルツルになってもいいとは誰も思っていないという事です。

都民委員

今までこの『流域連絡会』の中で工事内容や工事箇所等について色々と話し合いがされてきた訳ですが、そういった事をこの『河川整備計画』に反映させられるものなのでしょうか。それとも『河川整備計画』はもう決まってしまうもので、年度毎の“工事計画”にしか反映できないのでしょうか。

座長

島津委員からの質問について、京浜河川事務所からご回答願えますでしょうか。

行政委員

どうお答えすればよいか悩む所ですが、『河川整備計画』は作ったきりではなく、これは皆さんの手元にはお配りしていませんが**「本計画の対象期間は概ね20年から30年間とする。なお、洪水等防止経験水準の向上の状況、流域の社会状況、自然状況等の変化や新たな知見、技術の進歩等により、対象区間内では逐次必要に応じ本計画の変更を行う」**としていますので、柔軟な計画という事で認識して頂きたいと思います。

それと『河川整備計画』というのは工事のやり方を細かく定義するものではなく、「こういった場合にはこういった対策が必要だ」という事を決めている訳です。具体的な工事等についても、例えば**「施工の場所、設置される河川管理施設等については地域住民、自治体等と調整を計る」**と記載されている様に、当然住民の方とお話し合いをした上で、関係市町村等とも話し合いをして、施工場所をずらしたりする事もあります。

都民委員

そういった事は“工事計画”の段階でやられるという事でしょうか。

行政委員

『河川整備計画』ではなく“工事計画”の段階でそういった調整をさせて頂くものもあ

るという事です。

都民委員

それはごく一部の、それも小さい部分での話ではないですか。

行政委員

例えば、水防拠点を整備する場合、周辺の状況等「何処に造るのが最適か」というのは地域の方々と相談して決めるというのがありますので、そういったものは調整を計りながら実施します。しかし、「ここが危険なので整備します」という様な整備の場合は、「位置をずらしてくれ」という意見を頂いても聞けないという事です。

都民委員

『河川整備計画』が基本としてあって、それを基にして“工事計画”が出来ると。

行政委員

そうですね、『河川整備計画』という 20~30 年の全体像があって、その中で「今年はこちらを整備していこう」という“工事計画”を作るという事です。

都民委員

そうすると、例えば“工事計画”が『河川整備計画』と違ったりする事はあり得ますか。

行政委員

『河川整備計画』に書かれている箇所と違う所を整備するという事ですか。

都民委員

はい。そういった場合には『河川整備計画』が優先されて「そこを整備してはいけません」という事になるのでしょうか。

行政委員

難しい所ですね。『河川整備計画』に一切記載されていない箇所を整備するというケースはないとは思いますが…。

団体委員

あくまで計画なので、双方で話し合っ変えていく事も大事だと思います。『河川整備計画』に書いてあるから」という事を優先するのではなく、現実を見ながら対応していくのが大事だと思います。

先程の説明の中に“リバーミュージアム”という考え方がありましたが、みんなが川ベ

りで遊べる様な環境作りが大事だと思います。台風の際の洪水対策というだけではなく、我々浅川の近くで生活している者にとっては、浅川に対する関心をもう少し強く持って頂きたいと思う訳です。河川の中の道は車が通行し放題で、抜道や裏道としてそこを通る車が、物凄いスピードでビュンビュンとばして行く訳です。前は河川敷で子供達がよく遊んでいましたが、今は危なくてとても遊べたものではありません。また、ゴミ等も捨てられ放題で、浅川は八王子市民にとって誇るべき川でなければならぬのに、それを市民自身が駄目になっている訳です。

座 長

では、次の団体委員。

団体委員

今までの河川整備のやり方は、決まっている事であればそれが何十年前に決められた事であろうとやってしまうというやり方が多かったと思います。しかし浅川は物凄い急流河川ですし、それよりも急流な支川が 13 河川もある訳です。という事は急激に水が増して、下流部は酷い目に遭う事もあります。ですから流域の上流から下流の人々が一つのテーブルに着いて話し合う事が重要だと前から申し上げているのですが、この『流域連絡会』位しかそういった場がないわけです。上流の方と下流の方が話し合う機会をもっと広げてほしいと行政に要望します。

もう一つ、浅川は多摩川と違い河道が狭いです。その中に“防護ライン”という低水護岸の法線を引いてしまった場合、加積という意味から考えるとどうなのかと思います。本堤防を守るために低水護岸を整備するという事ですが、浅川に流入する水量は今後更に大きくなると考えられますので、それを見越すと「お金は掛かるかもしれませんが本堤防をもう少し後ろにセットバックして川幅を広げるのが一番安全なのではないか」という提案をいつもしているのです。そういった事であれば予算もつくのではないのでしょうか。

座 長

それはご質問ですか。

団体委員

はい。

座 長

大胆なご質問ですが、今回はご意見として承っておくという事でよろしいでしょうか。

団体委員

質問といいますが要望も含めてなのですが、東京都から『浅川圏域河川整備計画』を提示して頂き、非常に前進してきていると思うのですが、例えば湯殿川の上流部ですと“良好な自然環境がある箇所”という事で色分けがされていますが、出来ましたら京浜河川事務所の『河川整備計画』の様に付図を用いて「ここはこう整備します」という様な事が我々にも解り易い様にして頂ければと思います。そういった事で、利水、治水、環境の各面での様に考えているのかを明示して頂きたい。これは要望です。

(2)多自然川づくり基本指針の概要について

座長

では、次の議題に移りたいと思います。『(2)多自然川づくり基本指針の概要について』という事で、東京都よりお願いします。

行政委員

それでは、『多自然川づくり基本指針』について説明させていただきます。

- 配付資料：『多自然川づくり基本指針』『多自然川づくりのこれまでの取り組み』
『多自然型川づくりから多自然川づくりへ』の内容説明 -

座長

先ずは、どう考えても予定終了時間を30分程オーバーしそうですので、予めそれをご了承頂きたいと思います。

では、東京都河川部より説明して頂いたので、質問がある方はいますでしょうか。

団体委員

そもそも“型”が「入っている」「入っていない」という問題ではなく、「『多自然型川づくり』とは何か」という事を行政が理解していなかったのが一番の原因だと思います。谷地川にしても緑化ブロックにリョウヤナギやオカメザサといった植物を植えて、それで「自然に配慮している」と思っていた訳ですよね。今、東京都から説明があったという事は「そういった事を反省して今後取り組んでいく」という事を言っていると捉えてよいのでしょうか。谷地川等は「緑化ブロックの使用を取りやめて環境に配慮したコンクリートブロックを使用していく」といった有り得ない様な事を言っていて、その一方でほんの一部分で玉石護岸を設置すると言っていますが、これでは“逃げ”の様な感じがしてしまいます。“型”を取って凄く良いものになった様に言っていますが、私からすると可笑しくてしょうがな

いです。元々「生物の良好な生育環境に配慮して」というのは全体を考えて言っている訳ですから、「“型”が付く事で個別に捕らえがちであった」とか「そこだけに当てはめてやった」と言う事自体が間違いであったので、私もかつては行政にいたので反省しなければならないと思いますが、行政が反省して「今度はこの様にやるのだ」という謙虚さが必要だと思います。是非東京都の河川工事に活かして貰いたいという願いをしておきます。

行政委員

“型”を「取る」「取らない」というのは東京都に限った事ではなく、“型”が付いているから現場が誤解してしまっている」というのは委員会で言われている全体的な話です。只、東京都としても指針の趣旨は把握しておりますので、色々と制約条件もありますが、出来るだけ前向きに、なるべく早く実施していこうと考えております。

都民委員

東京都からの説明で『多自然川づくり基本指針』の“理念”は十分に解りました。只、“理念”は兎も角として、例えばある事業を実施したらこの様な問題が出てきた、それを受けてこういう事を行ったと、そういった点が非常に興味がある部分なのです。例えば行政から「南浅川のある地点で『多自然川づくり』を取り入れてこういった整備をしていきたい」という提案がされたとします。その際に他の河川での事例や実験データ等に基づいて「こういう整備を行ったらこういう問題が出てくるだろう」とか「この部分にはこの様な整備が良さそうなので、こういった提案がしたい」といった事を提示して貰えれば、我々の方も素人の考えでしかない訳ですが「こうやればどうか」や「こういう事はどうなのか」といった意見が出せる訳です。是非ともこの『浅川流域連絡会』をその様な討議の場にして頂きたいと思います。

話を戻してしまって申し訳ありませんが、先程説明して頂いた『河川整備計画』についても、どうも私にはピンと来ないと言いますか、「この『河川整備計画』の概要に基づいて今後も整備を行っていきますが宜しいでしょうか」と我々に問われているのだと思いますが、説明を聞いた結果は「良いのだから悪いのだから判らない」というのが本音なのです。それは何故かと言いますと、やはり我々が関心を持ち、我々が提言出来る事柄に関して「どうなのでしょう」という問い掛けにはなっていないと思います。

団体委員

細かい事を申し上げますが、浅川は物凄く急流河川で、大水が出た時には土石流の様にガラガラ音を発てる程流れが石を含んでいます。少し水が引くと下流部にはかなり石が溜まってしまいます。多自然工法とか言う前に、工事で水衝部に硬いものを貼り付けたままの箇所の上流部にはかなりの水当たりがあって、そこもやがて工事しなければならなくなる現象がずっと起こっています。ですから、水衝部に硬いものを貼り付けた際には

跳ね返って対岸にいかない様な工夫を考えてほしいと思います。そうでないと浅川が全部コンクリートの河川になってしまいます。前から言っていますが本当に考えて貰いたいと思います。

座 長

他にご意見はないでしょうか。

ない様ですので、私からも言わせて頂きます。認識としまして、山本委員も言われましたが「浅川はいつもいつも治水で手一杯で、他の事は出来ません」という事は私も随分今までに聞いてきました。しかし、基本的には『河川法』が改正されて、その様な理由で他の色々な事を一蹴してしまうのは駄目だという事になった訳です。今回の『多自然川づくり基本指針』でも「河川整備で自然の事を考えなければいけません」という事が通達で出されたという認識で宜しいでしょうか。先程の説明の中で“全ての河川”という事を言っておられたと記憶しているのですが。

行政委員

指針としてはその通りです。これは一般論として聞いて頂きたいのですが、近年の『河川法』の改正で“環境”という考えが盛り込まれました。しかしそれは“治水”“利水”“環境”の3つが必ずセットになっているという事です。当然ですが“治水”“利水”を無視して“環境”のみに特化した整備はあり得ないという事です。また、この3つに優先順位を付ける訳ではありませんが、河川行政の大きな役割として“財産の保護”があります。「洪水等の災害からどの様に財産を守っていく為の整備をしていくか」という事を考え、その中にどうやって環境に配慮した“多自然”を取り込んでいけるかだと考えています。

行政委員

具体的に言いますと、あくまで『多自然川づくり基本指針』は全国レベルのもので、例えば神田川の様な都市計画決定がされている河川で“多自然”を取り込んでいけるかという事です。どうしても治水とバッティングしてしまう訳です。“多自然”と言っても色々な考え方があるとは思いますが、そういった状況の中でそれでも緑を多く作っていく事が優先されるかという、皆さんの考えも同じだと思いますが、行政の判断では“まずは水害をなくす”という事が河川によっては優先されてくる事がある訳です。

都民委員

一つ宜しいでしょうか。『多自然川づくり』を実施した事例についてはご説明頂いたのですが、例えば東京都で既に整備した箇所について“多自然”にしてほしいという様な要望がある場合には、どの様なプロセスで要望を持ち上げていけば宜しいのでしょうか。

行政委員

端的に申しますと、整備が既に終了している箇所ですと中々厳しいというのが現状です。市民からの要望については、整備する段階で取り入れていくという事が基本になっています。

都民委員

それは理解しているのですが、例えば整備が終わっている箇所に「親水護岸を整備してほしい」といった要望等はどのような形で持ち上げれば宜しいのでしょうか。

行政委員

浅川は南西建の管轄になりますので、まずはそちらにアクションを起こして頂くという事になるかと思います。そうすれば河川部の方にも話が上がってくるかと思うので、そういった要望を精査し、予算が付くのかを検討するといった事になると考えられます。

(3)その他

座長

恐縮ですが、最後の議題の『(3)その他』に移りたいと思います。では、事務局よりお願いします。

事務局

4点程資料を用意していたのですが、時間もありませんので優先順位の高いものからご説明させていただきます。

まずは次回の『フィールドワーク』の見学候補地につきまして事務局の中田から説明させていただきます。

事務局

- 配付資料：『第3回 フィールドワーク 見学地(案)』の内容説明 -

座長

事務局より次回の『フィールドワーク』の候補地、これは事務局(案)という事ですが、それについて説明して頂きました。

委員の皆さんの中で、質問や「私はこんな所を見学してみたい」といった提案等はありませんでしょうか。

都民委員

例えば、このこういった自然を残したいのだけど、治水的に見てこういった問題が起こっているといった箇所を見せて頂ければ面白いと考えています。

団体委員

私は『フィールドワーク』の時にいつも思うのですが、何故小さな川からやっていくのでしょうか。小さな川を見学する事も大切な事だと思いますが、この会は『浅川流域連絡会』という事ですので、やはり浅川本川が基本になるべきではないでしょうか。それに、この会には京浜河川事務所も参加している訳ですから、先程も申し上げた様に色々と問題のある浅川の現状を実際に見て、どうすればよいかについて話し合っていく事が重要だと考えます。

座長

ご意見として承っておきます。

他にございませんでしょうか。

都民委員

私は『多自然型川づくり』として整備された箇所を是非見せて頂きたいと思います。先程スクリーンで幾つか事例を交えて説明して頂いた中で、『多自然型川づくり』がうまくいった箇所もあれば、うまくいかなかった箇所もあるという事でした。そういった箇所を実際に見学して、良かった点や改善点、また当初予想していなくて出てきた問題等について説明して頂ければと思います。

座長

『フィールドワーク』までにはまだ多少時間もありますので、事務局の方にはご苦労だとは思いますが、委員の皆様の意見も参考にして、再度見学地について検討して頂ければと思います。

事務局

『フィールドワーク』まで委員の皆様が集まる機会がありませんので、見学地を含めた『フィールドワーク』の詳細については事務局と座長の方で詰めさせて頂いて、委員の皆様には文書等でご連絡するという事にさせて頂きたいと思います。

事務局

では、次に松枝橋の架替え工事について、工事課より説明させて頂きます。

行政委員

- 配付資料：『松枝橋架替え工事について』の内容説明 -

座 長

八王子市や日野市からは、何か提案事項や報告事項等がありますか。
では、団体委員。

団体委員

時間がない所を申し訳ない。

前回の『流域連絡会』で国土交通省より今年度の工事箇所についての説明があった訳ですが、昨年度のように急に追加工事を出す様な、要するに1年中工事をする様な事は止めて頂きたいという事です。よっぽどの事がない限りは計画通りの工事以外はやらないで頂きたいと要望します。

座 長

次回の『流域連絡会』は『第3回 フィールドワーク』という事になります。開催日時等についてはどの様になっていますでしょうか。

事務局

当初の実施計画通り11月の中旬を予定しています。マイクロバスの使用状況等もありますのではっきりした事は言えませんが、出来れば11月18日(水)、19日(木)、20日(金)の3日間のいずれかで決めて頂ければと考えています。

座 長

11月18日(水)、19日(木)、20日(金)のいずれかの平日の午後というのが、事務局からの提案ですが、それぞれ平日ですので都合はあるかと思いますが、「特にこの日は避けてほしい」というご要望があれば言って頂ければ…。どれでも同じですか。では、事務局と相談させて頂きまして、決まり次第出来るだけ早急に委員の皆様にご連絡するという事で宜しいでしょうか。

都民委員

日時については、今日座長に決めて頂ければ宜しいのではないのでしょうか。

座 長

では、11月19日(木)という事で宜しいでしょうか。

事務局

11月19日(木)の13時に、この合同庁舎を出発するという事で宜しくお願いします。

事務局

本日、配布資料としまして前回の『流域連絡会』議事録をお出ししましたが、一部個人名がそのまま記載されてしまっている箇所が見つかりました。そこを修正した上でホームページには掲載したいと思いますので、宜しくお願いします。

座 長

では、本日予定されていた議事についてはこれまでという事で、時間をオーバーしてしまいまして大変申し訳ありませんでした。

3 閉 会

座 長

それでは閉会の挨拶を事務局よりお願いします。

事務局

以上をもちまして『第5回浅川流域連絡会』を閉会させていただきます。皆様本日はお忙しい所誠にありがとうございました。